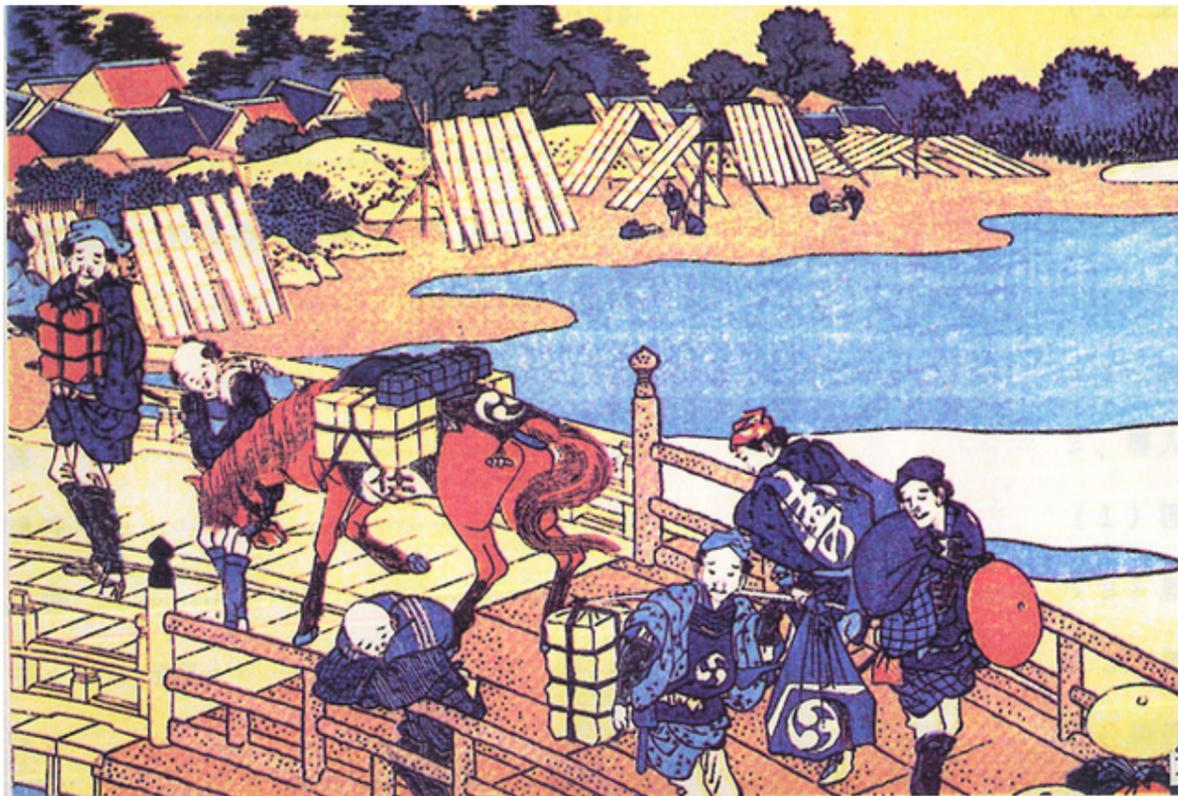


足羽川河川環境整備検討概要報告書



江戸後期の九十九橋の様子（葛飾北斎「諸国名橋奇覧」福井県立美術館 所蔵）



足羽川の桜堤（桜橋～九十九橋）

平成 18 年 3 月

足羽川河川環境整備検討会

はじめに

「足羽川河川環境整備検討会」は、足羽川の河川激甚災害対策特別緊急事業区間を河道内、堤防、沿川市街地を対象範囲として、主として、自然環境の保全、桜堤の保全、水辺空間利用の創出の観点から、足羽川河川環境整備の具体的な計画を検討することを目的に設置したものである。

検討会では、計4回にわたり、流域の概要、足羽川と地域社会との関わり、地域住民や各種団体の意見・要望を踏まえ、河川環境整備に関わる課題解決のために議論を重ね、ここに、河川環境整備案の基本方針、整備概要等を報告書として取りまとめた。具体的な検討内容として、自然環境については、改修に伴う既存の河川環境への配慮と保全・再生のための方策について、塩水遡上の可能性も含めて検討した。また、桜堤については、福井のシンボルであるトンネル状の桜堤を将来に亘って継承し、さらには様々な樹齢、様々な種類の桜を植栽することで永続的かつ多様な桜堤を創出することで新たな福井の地域資源とするための検討を行った。また、水辺空間の整備に際しては、景観的なデザインを含めて足羽川という新たな景観軸の形成を図るとともに、地域交流、地域活性化のための福井市街地と足羽川との新たな関係を築いていくために、5年後、20年後と将来を見据えた上でのまちづくり計画とするべく、審議・意見交換が行われた。

足羽川河川環境整備は、今後も地域の多様な意見や要望等を踏まえ、地域住民との話し合いのもと合意形成を図りながら進めていくべき整備メニューが大半を占めている。

本報告書は、地域住民との合意形成を図ることを前提に整備構想案を提言するものであり、本構想案が行政と市民との協働による川づくり、まちづくり、そのための組織体制づくりに大きく寄与し、今後一日も早く施策に反映されることを強く期待するものである。そして、市民に愛され続ける足羽川の姿が真に実現することを願うものである。

平成18年3月
足羽川河川環境整備検討会

足羽川河川環境整備検討会委員名簿

氏名	所属	専門分野	備考
進士 五十八	東京農業大学 地域環境科学部 教授	ランドスケープ	委員長
荒井 克彦	福井大学 工学部 教授	地盤	副委員長
細田 尚	京都大学大学院 工学研究科 教授	河川	
白石 真澄	東洋大学 経済学部 助教授	まちづくり	
朝日 恵子	福井文化服装学院 校長	アメニティー	
高原 裕一	福井商工会議所 青年部会長	利用者代表	
藤田 光一	国土交通省 国土技術政策総合研究所 室長	河川環境	
今井 三千穂	福井県総合グリーンセンター 林業試験部長	林学	
矢野 憲一	福井市企画政策部長	行政	
道下 洋一	福井市商工労働部長	行政	
谷根 英一	福井市都市政策部長	行政	

順不同、敬称略

助言者

氏名	所属	専門分野	備考
布村 明彦	国土交通省 河川計画課長	行政	
松村 肇	国土交通省 近畿地方整備局	行政	

順不同、敬称略

足羽川河川環境整備検討概要報告書

目 次

1. 河川環境整備に関わる課題、目標、検討方策	1
2. 基本方針	2
(1)足羽川河川環境整備全体イメージ	2
(2)基本方針	2
3. 自然環境の保全方策	3
(1)水際・水域環境の保全方策	3
(2)高水敷等での自然環境の保全方策	3
4. 桜堤の保全・再生	4
(1)堤防対策方針	4
(2)桜堤堤防案	4
(3)様々な種類の桜を植栽する多様な桜堤の提案	4
(4)様々な樹齢の桜を植栽する、永続的・多層的な桜堤の提案	4
5. 水辺空間の利用	5
6. 整備概要図	9
7. 維持管理・役割分担	12

1. 河川環境整備に関わる課題、目標、検討方策

足羽川の現状

平成 16 年 7 月福井豪雨
平成 16 年 7 月 18 日の猛烈な降雨により、足羽川が破堤。死者 4 名、行方不明 1 名、全壊 57 棟、半壊 139 棟、一部損壊 211 棟、床上浸水 3313 棟、床下浸水 10,324 棟の未曾有の大災害。

足羽川の自然環境

- 高水敷オギなどの草地はカヤネズミやオオヨシキリの繁殖場。
- 中州や寄り州が点在し、水際にはタコノアシやミクリなどの貴重種が生育。
- オオブタクサ、アレチウリ、セイタカワダチソウなど帰化種の優占する群落もあり。
- 下流部でボラなどの汽水性の魚類も確認されるが、ギンブナ・オイカワなどの純淡水性の魚類相。
- 外来種はブラックバス等が確認。

足羽川の桜堤

- 左右岸堤防に、樹齢 50 年を超えるソメイヨシノの並木（左岸 2.4km、右岸 1.7km）。市民の誇り、シンボリック存在。左岸は約 2.2km のアーチ状桜堤。
- 足羽川と足羽山の桜は対で、「日本のさくらの名所 100 選」にも選ばれた福井県を代表する桜の名所。
- 昭和 27 年の福井復興博覧会を機会に、商工会議所・観光協会・福井市が協力して植樹。
- 江戸時代は九十九橋左岸上下流に桃畠があった。

水辺空間利用・景観等

<歴史的景観形成と舟運>

- 江戸時代の足羽川は福井城の外堀。右岸の護岸は石垣や河戸が設置。設けられていた。
- 河川舟運が繁栄し、三国港までの舟運路が開通。現在の九十九橋の周辺には船着場が存在。橋曙覧の歌にも読まれる。
- かつての九十九橋は半石半木の奇橋として、葛飾北斎にも描かれる。

<親水・レクリエーション>

- 福井市では足羽橋より JR 北陸本線橋梁までの区間を対象に、芝生広場や園路を整備し、スポーツレクリエーション等の場として有効利用を図っている。

<行事・イベント>

- 「福井フェニックスまつり(ふくいまつり)」
- 春まつりの「越前時代行列」
- 花火大会(8 月)
- (社)福井青年会議所主催の「秋の収穫祭」。
- 東安居地区の住民らによる「菜の花ロード」、「コスモスロード」

河川及び沿河市街地における課題、川づくりの目標、検討方策

治水に関する課題

- 越水に伴う破堤（堤防機能の脆弱化）
- 現況河道の河積不足

治水に関する目標

- 堤防の質的強化（浸透）
- 河床掘削（流下能力向上）

足羽川洪水災害調査対策検討会
(足羽川河川激甚対策災害特別緊急事業)

課題	目標	方策
既往の自然環境の保全 改修により急激な環境変化の恐れあり。既往の植生環境、生物の生息環境の早期復元、外来植物対策が必要。	自然と生き物にやさしい川づくり ・ 元来有していた多様な河川環境、固有の生態系を保全・復元	自然環境の保全方策の検討 ・ 水際の方策 ・ 高水敷の方策
塩水遡上の可能性 河床掘削に伴う塩水遡上の影響把握。生物の生息環境や利水上の観点から必要に応じて対策案を検討。		塩水遡上影響評価と必要に応じた対策検討 ・ 二次元多層レベルモデルによる塩水遡上シミュレーションの実施 ・ 塩水遡上評価と必要に応じた対策
堤防の質的強化と桜堤の保全 ・ 堤防整備に伴う桜堤の保全方策。 ・ 足羽川景観と桜堤の保全に配慮した堤防整備のための方策等について検討。	歴史・文化などの「時の流れ」を「桜と水の流れ」で紡ぐ川づくり ・ 福井の歴史に日常的にふれあい楽しむことができる散策空間を桜と水の流れをモチーフに整備	桜堤の保全方策の検討 ・ アーチ状桜堤の存続方策 ・ 現況桜木の移植方策 ・ 右岸特殊堤区間の桜堤の方策
桜の寿命 ・ 老朽化、菌類による空洞化に伴う植え替え、 ・ 新植方法などの将来を見据えた桜堤の方策検討の必要性。		桜の植え替え・長期的移植方法の検討 ・ 堤防の施工計画と植え替え方策
桜堤・水辺回廊などの親水空間と市街地が一体となった整備 ・ 桜堤、水辺空間などの親水空間と市街地を一体とした水辺空間整備を通して、人と川のつながりについて再認識。 ・ ふくいの歴史・文化にふれあい、親しむための水辺景観形成。福井市歴史のみちなど関連計画との整合。 ・ 舟運の衰退等に伴う人と川とのつながり希薄化。舟運復活の可能性など地域振興をキーワードとした多様な水辺空間の創出の必要。	川の自然と利用が調和した川づくり ・ 足羽川の自然と福井の歴史、文化の融合、地域と川の融合を沿川整備と合わせて推進し、人と川との新たなコミュニティの再生を推進	水辺空間整備のための利活用方策の検討 ・ 市街地と河川空間の一体化方策 ・ 社会実験などによる地域振興方策 ・ 市民との協働による桜堤・川づくり方策。
景観		
舟運の復活（レクリエーション）などの地域振興		

2. 基本方針

(1) 足羽川河川環境整備の全体イメージ

全体イメージ
足羽山、越前福井の歴史文化を
紡ぎ織りあげる 足羽の川づくり

福井市内は昭和20年代における空襲、福井大地震及びその直後の大洪水と度重なる試練から復興をとげたものの、時代の移り変わりと共に、かつてのふくい面影は薄れ、足羽川と人々の関わりは希薄となっている。福井城下と足羽山にちりばめられた福井の歴史、文化、誇りを、福井市の「東西景観軸」である足羽川の水辺を通して、羽二重織りのごとく、ひとつひとつ紡ぎ、織りあげることで、より平面的な、立体的な都市景観づくりと地域の活性化を図る。

(2) 基本方針

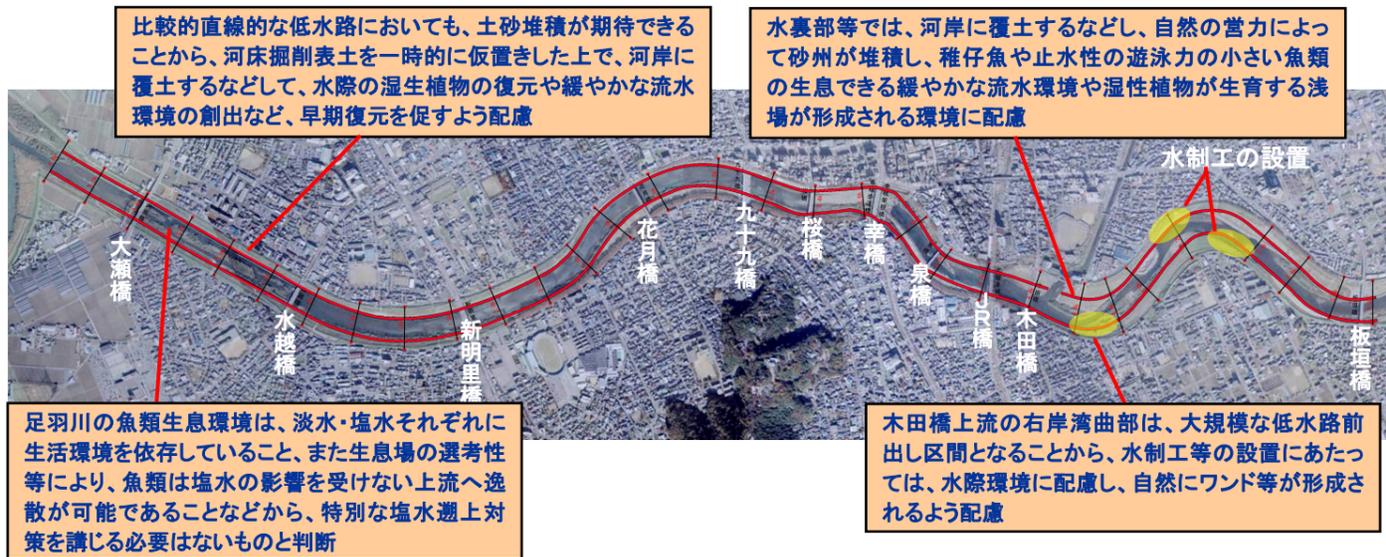
基本方針

- 1) 足羽川流域内の住民の命と生活を守る安全安心な川づくり
足羽川地域内の住民の生活環境を脅かす水害が再び繰り返されることのないよう、河床掘削などによる河積の拡大や堤防、護岸などの強化を行うとともに、都市の防災機能を確保する空間として人々の命と生活を守る安全で安心な川づくりを目指す。
- 2) 自然と生き物にやさしい川づくり
足羽川在来の自然環境を保全・再生するとともに、自然と生き物にやさしく、多様な生き物の生息・生育場の復元・創出を図る川づくりを目指す。
- 3) 川の自然と利用、河川と地域が調和した川づくり
福井中心部を流れる足羽川は、河川環境としての重要性の一方、古くより舟運、憩いの場、行楽の場として利活用されてきた歴史を有する。また、川筋は部分的に直線的にされてきたものの、今なお蛇行し、川のダイナミズムが内在することから、足羽川本来の河道特性、ダイナミズムを活かした環境と利用の調和、市街地と河川空間が一体となった川づくりを目指す。
- 4) 歴史・文化などの「時の流れ」を「桜と水の流れ」で紡ぐ水辺空間・景観づくり
足羽川を中心に築き上げられてきた越前福井の歴史、その遺産・面影などの時の流れにふくい市民や訪れた人々がふれあい楽しむことのできる魅力ある散策ルートを桜と水の流れの関わりをモチーフに回廊として紡ぎ、新たな足羽川の水辺空間づくり、地域と一体となった景観づくりを目指す。また、地域住民の意見を積極的に取り入れ、足羽川を介した人と人、人と川との新たなコミュニティの再生を目指す。

3. 自然環境の保全方策

(1) 水際・水域環境の保全方策

足羽川の特徴ある低水路の蛇行特性に配慮し、砂州が形成されやすい水裏部等では、表土覆土等による在来植生の早期復元に努める。また、低水護岸については極力、自然的素材（石材、木材、植生など）を用いた工法を採用することとし、水際環境の多様性に配慮する。



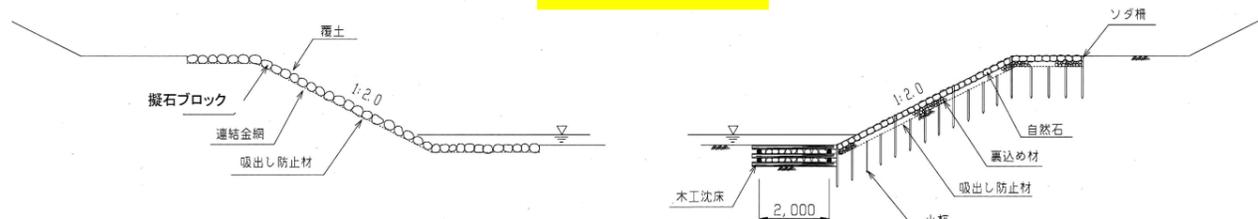
(2) 高水敷等での自然環境の保全方策

足羽川においては、現存する在来の自然環境を保全することはもとより、河川改修に伴う河川敷の攪乱による外来種の進入を防ぎ、できるかぎり良好な自然環境に近づけるよう自然の再生に努める。また、河川敷に整備する散策路、広場等については、その周辺自然地の保全に努めることとし、周辺自然地への人の進入を極力抑え、水域からの連続した生態系の推移帯（以下エコトーンと呼ぶ）の形成に配慮する。

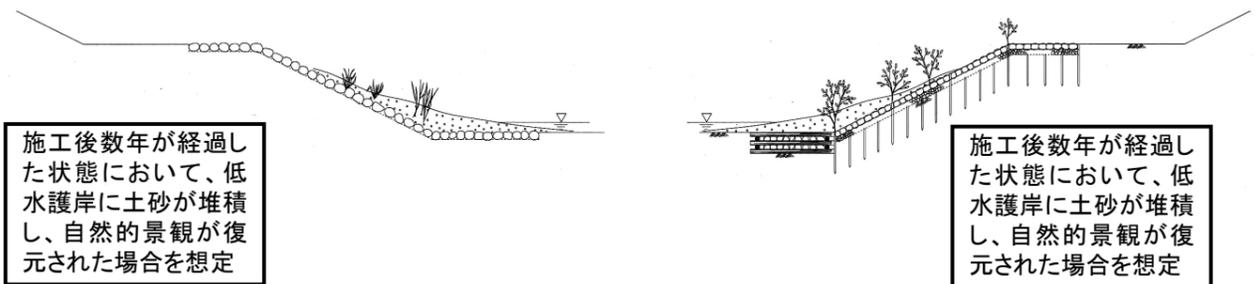


足羽川の低水護岸工法の一例

施工時

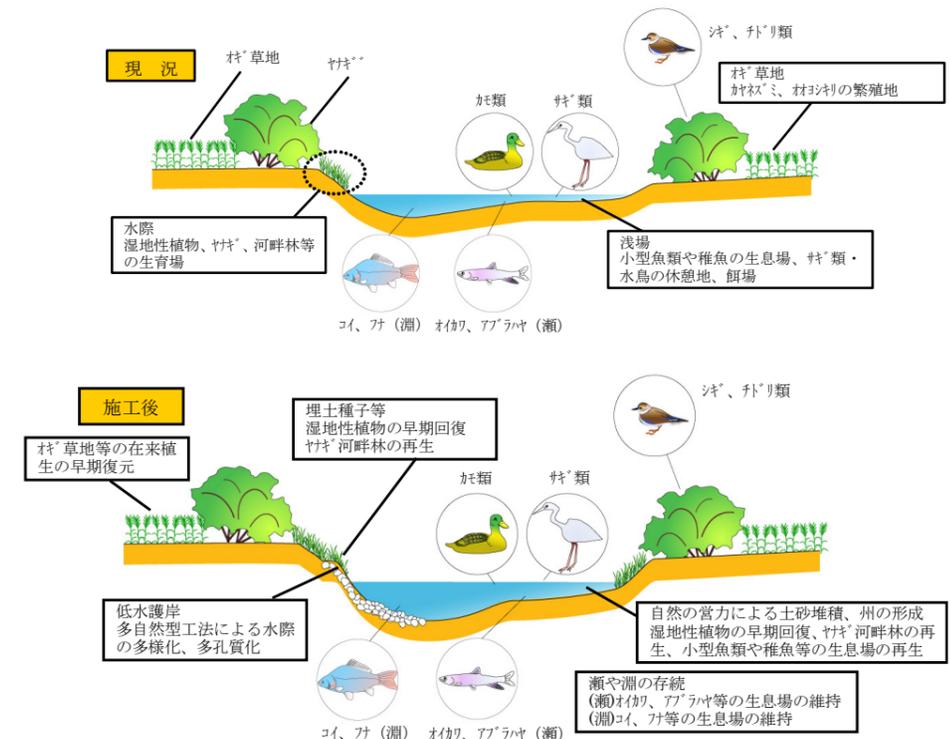


施工後の土砂堆積による多自然化(将来想定時)



接続ブロック(自然石風)の実施例

自然石粗朶柵工の実施例



河川改修施工時、施工後における自然環境保全の配慮事項イメージ

4. 桜堤の保全・再生

(1) 堤防対策方針

堤防定規断面に根が入らないようにする

対策方法

側帯案

- 川裏側に側帯を設置し、その上に桜木の植樹を行う案
- 堤防定規断面内に桜根が侵入することはない

課題: 沿川に住宅が連担する密集地であり、宅地補償に対する課題やその他周辺住民に与え響が大きい。



(3) 様々な種類の桜を植栽する多様な桜堤の提案

- 現在の桜堤は、全てソメイヨシノが植樹されているが、移植に際しては、花期の異なる様々な桜の樹種を新植することで、景観的な変化を持たせ、より長い期間、桜を楽しめる工夫をする。

多様な桜の混植と開花期の関係

		メリット	デメリット
ソメイヨシノのみ		一斉の開花時は見栄えがよい	一斉に咲き、散るため、花の見ごろ時期が短い
多樹種混植	交互に植樹	開花期の異なる樹種を植樹することで、長い期間、桜のアーチが楽しめ、植生的にも安定する。	一斉に開花しないことから、見栄えは劣る
	一定区間毎に植樹	開花期の異なる樹種を選定することにより、長い期間、花見が楽しめる	桜堤全体を見渡したとき、見栄えは劣る



ソメイヨシノの親桜であるエドヒガン、オオシマザクラを混植した場合のイメージ

(2) 桜堤堤防案

トンネル状案

現況堤防の川裏側を拡幅し、桜木を千鳥配置で植樹する案

- 堤防の安定性確保
- 桜のトンネルを極力再現
- 道路幅員を狭めたり、用地の提供が必要

1列植樹案

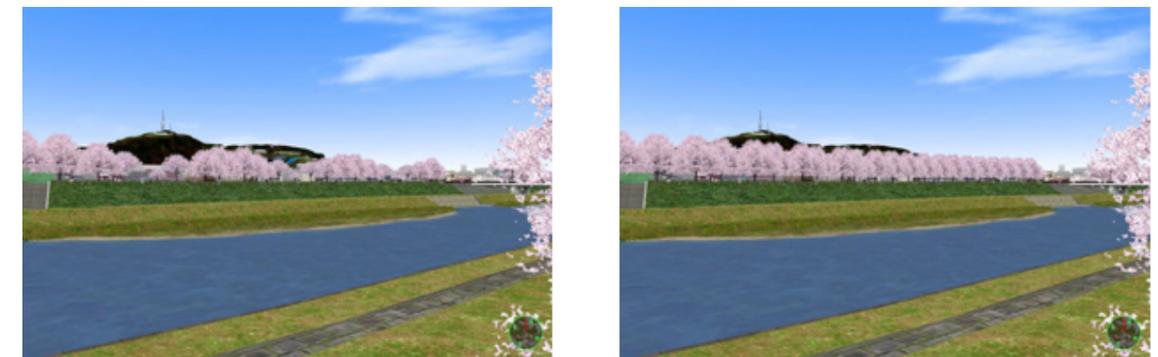
現況堤防の川裏側を拡幅し、桜木を1列に植樹する案

- 堤防の安定性確保
- 桜木の植樹は1列のため、景観は現状より劣る
- 道路幅員を狭めたり、用地の提供が必要(ただしトンネル状案ほど必要ない)

青字: メリット、赤字: デメリット

(4) 様々な樹齢の桜を植栽する、永続的・多層的な桜堤の提案

- 現在の足羽川の桜の樹齢は50年を超えており、このままでは一斉に寿命を迎え、植え替えが必要となる。様々な樹齢の桜を植栽し、足羽川の桜堤を永続的な桜の名所とする。



幼木・中木植栽直後の景観

15年後

堤防側帯擁壁の圧迫感の緩和、景観性の確保

側帯設置区間によっては、擁壁高が3mを超える区間もあり、極力3m以下に抑える。



緑化ブロックの場合



緑化ブロックにシバザクラを植栽した場合

※イメージ例の実現には、流域住民や市の理解と協力が必要となる。

(桜の移植・新植の配慮事項)



5. 水辺空間の利用

ゾーニングと整備方針

足羽川河川環境整備の全体イメージ及び基本方針、河川空間特性、河道特性、土地利用形態等を踏まえ、検討対象範囲である日野川合流から、板垣橋の区間を大きく以下の3つの区分にゾーニングを行った。

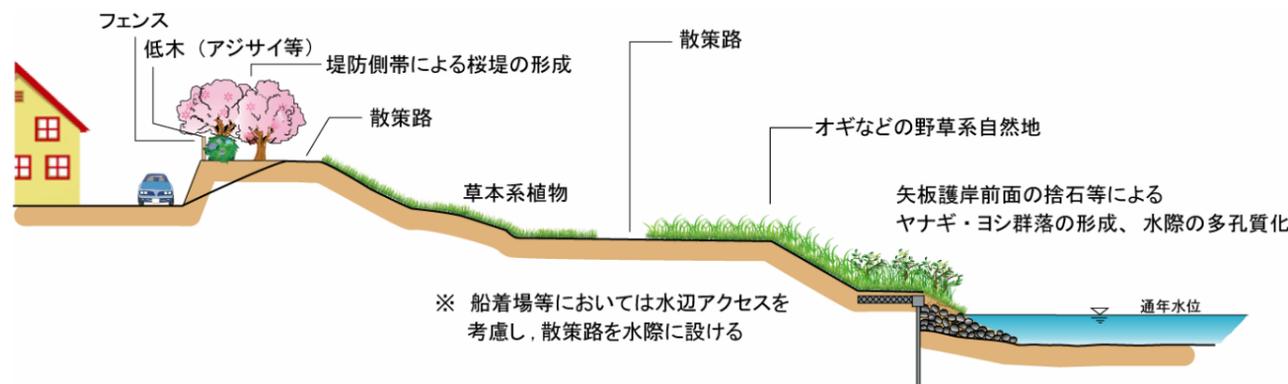
四季を楽しむふれあいゾーン（日野川合流点～花月橋付近）

●整備コンセプト

足羽川在来の身近な自然や貴重な生態系を保全するとともに、足羽川の四季折々の景観にふれあい楽しみながら、人々の出会い・ふれあいを演出するゾーンであり、環境と利用が調和した、市街地と河川空間が一体となった人と自然にやさしい整備を行う。

●ゾーン整備の考え方

- ・河川敷は草本系植物が多く、自然豊かなゾーンであり、足羽川の四季折々の植物とふれあえることができるゾーンである。
- ・これら野草系自然地と連続したエコトーン（生態系の推移帯）に配慮し、低水護岸には表面に凹凸のある自然石等を利用した護岸を採用し、ヤナギ、ヨシ群落の繁茂を促す。
- ・散策路周辺には草本系植物、オギなどの野草系植物を繁茂させ、歩いて自然景観を楽しむゾーンとする。



四季を楽しむふれあいゾーン 横断方向整備イメージ

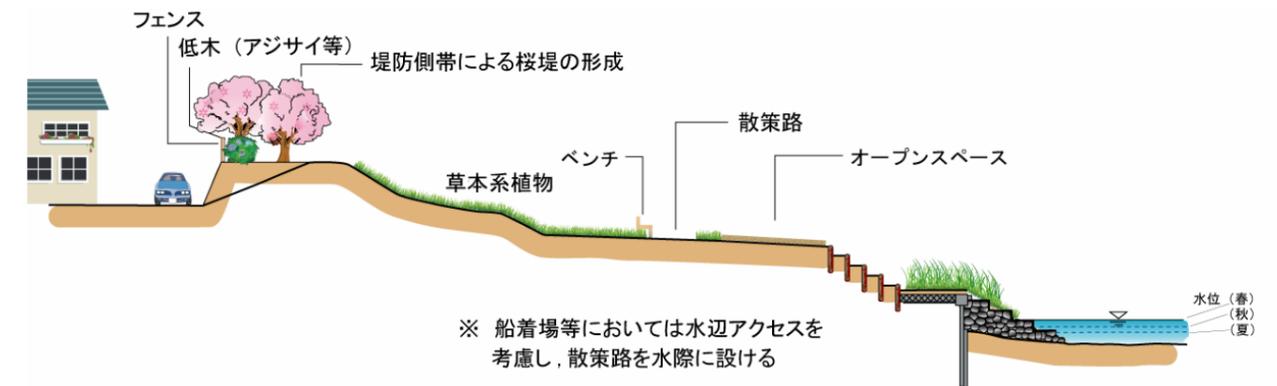
歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン（花月橋～JR北陸本線橋付近）

●整備コンセプト

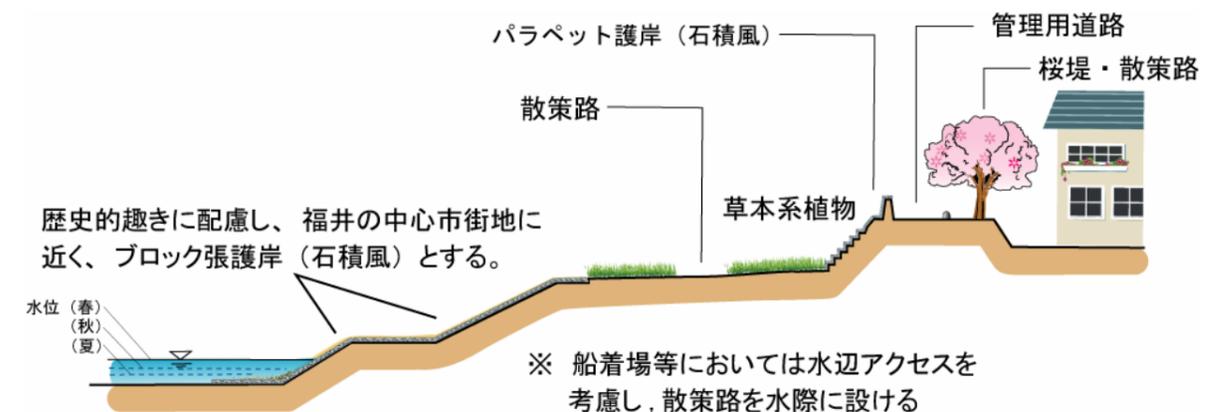
城下町として始まり、近代都市へと発展してきた福井の歴史・文化と接し、憩える魅力ある散策路を花と水の流れの回廊として紡ぐゾーンであり、憩いと賑わいを演出した整備を行う。

●ゾーン整備の考え方

- ・福井市の中心に近いことから、多くの市民が日常的に水辺と触れあうことができるゾーンであり、憩いの空間としての整備を行う。
- ・低水護岸には自然石や柳枝工等を採用し、植生を豊かにするとともに、連続する草本系植物、オギ群落とのエコトーンの形成に配慮する。
- ・にぎわい拠点としてのイベント利用を兼ねたオープンスペース、歴史風情や落ち着きが感じられる散策路を整備する。ただし、極力、散策路周辺には自然地を残し、水域と陸域の連続したエコトーンの形成に配慮する。
- ・かつての足羽川福井城の外堀、石垣護岸の面影をイメージさせる低水護岸など、現在のコンクリート剥き出しの状態のパラペット護岸の改良を行う。



歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン 横断方向整備イメージ（左岸側）



歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン 横断方向整備イメージ（右岸側）

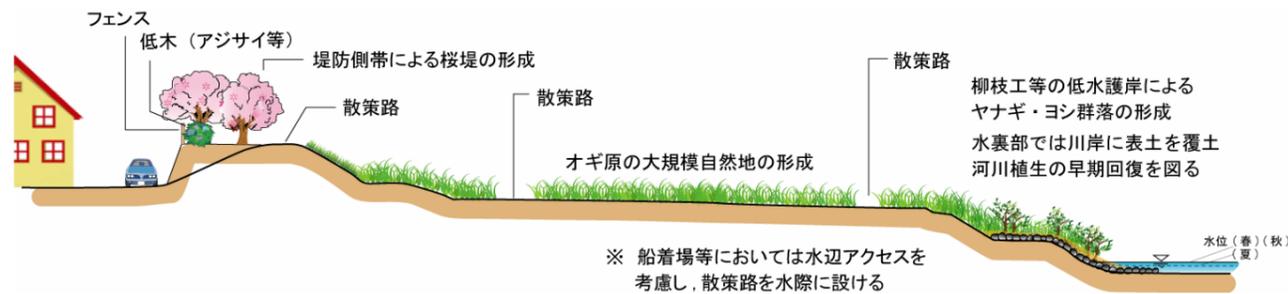
水辺の体験ゾーン（JR北陸本線橋～板垣橋付近）

●整備コンセプト

自然とのふれあい、水辺体験を目的としたレクリエーション活動の場として、自由に遊んだり、憩い・癒しの場として利用されるゾーンであり、足羽川に潜在する河道特性・ダイナミズムを活かした環境と利用の調和と、水辺体験、親水性に配慮した整備を行う。

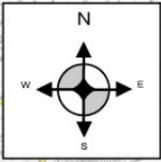
●ゾーン整備の考え方

- ・低水路の蛇行が激しい区間であり、水衝部と水裏部とが明確となり、川のダイナミズムを感じることができる河川景観を有する。
- ・流れの弱い水裏部の低水河岸には、河岸に表土を覆土するなどして、河岸植生の早期回復に努める。また、背後地の河川敷では豊かな自然植生の保全を図り、大規模自然地としてのエコトーンの形成に配慮する。
- ・水衝部の周辺には自然石や柳枝工等を用いた護岸を採用し、水際を多様なものとし生態環境に配慮するとともに、背後の芝生広場（自由広場）や草地系河川敷と連続したエコトーンの形成に努める。



水辺の体験ゾーン 横断方向整備イメージ

足羽川 河川環境整備 ゾーニング概要図



四季を楽しむふれあいゾーン

区分	土地利用区分
	住宅系地域
	商業系地域
	工業系地域

四季を楽しむふれあいゾーン

●整備コンセプト

足羽川在来の身近な自然や貴重な生態系を保全するとともに、足羽川の四季折々の景観にふれあい楽しみながら、人々の出会い・ふれあいを演出するゾーンであり、環境と利用が調和した、市街地と河川空間が一体となった人と自然にやさしい整備を行う。

●現況特性

- ・新明里橋から水越橋付近は、春になると堤防と河川敷一面に黄色い菜の花が広がり、「菜の花ロード」として心とむ市民の絶好の散策路として親しまれている。また秋にはコスモスが咲き乱れ、新明橋上流から聳がる桜並木と合わせ、四季折々の花と自然にふれあうことができる散策ゾーンである。
- ・オギ群落など草本系植物が比較的多く、自然豊かな特性を有する。
- ・沿川は比較的閑静な住宅地と農地とが混在し視界を遮る建物もなく、さらに上流側と比較して水面幅が広いこともあり、堤防上からは開けた眺望を楽しむことができ、足羽山がランドマークとなっている。



菜の花ロード



草本系植物が多く、自然が豊か

水辺の体験ゾーン

●整備コンセプト

自然とのふれあい、水辺体験を目的としたレクリエーション活動の場として、自由に遊んだり、憩い・癒しの場として利用されるゾーンであり、足羽川に潜在する河道特性・ダイナミズムを活かした環境と利用の調和と、水辺体験、親水性に配慮した整備を行う

●現況特性

- ・沿川は工業地と住宅地が混在する。
- ・下流区間と比較し低水路が蛇行しているのが特徴であり、湾曲の内岸側には砂州が堆積しやすく、水辺体験を目的としたレクリエーション活動の場として有利である。
- ・納涼花火大会などのイベント時には、花火の見物会場となるゾーンである。



木田橋上流の状況

歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン

●整備コンセプト

城下町として始まり、近代都市へと発展してきた福井の歴史・文化と接し、憩える魅力ある散策路を花と水の流れの回廊として紡ぐゾーンであり、憩いと賑わいを演出した整備を行う。

●現況特性

- ・福井市の中心地に近く、沿川は商業地であり、かつて半木半石でつくられた歴史的な面影を受け継ぐ九十九橋や、福井市の「南北景観帯」を形成するフェニックス通りに位置する幸福をはじめとして、多くの市民が日常的に足羽川と触れ合える憩いの空間である。
- ・樹齢50年を越えるソメイヨシノの並木が両岸にわたり続き、花見、散策路として多くの市民に親しまれ、市民の誇りでもあるシンボリック空間である。また、足羽川左岸の桜堤は、福井市都市景観重要建築物等として指定されており、更に「日本のさくらの名所100選」にも選定されている。
- ・「春まつり」での越前時代行列、「日本一の桜のトンネルライトアップ」などのイベントなどでは、福井市民だけでなく県内外からの多くの観光客で賑わいを見せる。
- ・九十九橋や足羽川周辺は、福井市が進める「歴史のみち整備計画」において、「幸福北詰～桜橋～足羽山麓」を連絡する道路を、足羽川の自然と笏谷壁を楽しめる散策空間を形成する「さくらの小径」に位置づけられ、歴史のみえるまちづくりが進められている。
- ・かつての足羽川は、とくに九十九橋周辺に船着場が多くあり舟運関連業者が店舗を連ねており、また、今の桜橋と九十九橋の間の南岸の広場は、盛夏のころ納涼の人で賑わい、7～8月頃には軽業、馬芝居、生人形、巡回動物園などが催され、足羽川とその河原の一角は、当時の福井城下の土民の重要な遊興の地であったとされる。



桜堤

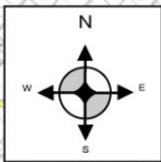


越前時代行列

水辺の体験ゾーン



足羽川 水辺空間整備利活用拠点の設定



四季を楽しむふれあいゾーン

区分	都市計画用途区分
 	住宅地域
 	商業地域
 	工業地域

● 九十九橋周辺

福井市の歴史遺産と面影を市民が日常的にふれあい、楽しむことができる拠点として、また、イベント利用などの賑わいの拠点として整備する。



● 右岸パラペット部周辺

河川景観が都市景観と調和するよう、右岸パラペット部の周辺を景観的視点から改良するとともに、まちと水と緑が向き合うコミュニティゾーンの形成を図る。パラペット護岸については、石垣風に修景改良し、かつての福井城の外堀、石垣護岸の面影を出す。



● さくらの小径



「歴史の道」を通じて、足羽川、足羽山に通じる散策コースを整備し、日常的な憩いの場、集いの場の散策空間を整備する。

● 鴨渡公園

河川と一体的に整備する拠点施設として位置づけ、堤防上の散策コースの休憩場、足羽川をランドマークとした開けた眺望を楽しむ景観拠点として位置づける。



歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン

● 新明里橋から木田橋の間の桜堤



福井の春を満喫できる絶景ポイントであり、花月橋、九十九橋、幸橋、泉橋からの桜堤の眺望を景観拠点として位置づける。



約2.2kmの桜堤の壮大なトンネルくぐりは、福井の観光資源、誇りでもあり、日常的な散策コースとしての位置づけを明確にする。

● 板垣橋下流右岸

居住地域、工業地域が混在し、働く人々、そこに住む人々が休養・レクリエーション活用できる拠点としての整備を位置づける。



低水路の蛇行が激しい川のダイナミズムを感じることができる景観場、自然とふれあうことができる体験場、自然を活かした利用拠点としてワンド整備を位置づける。

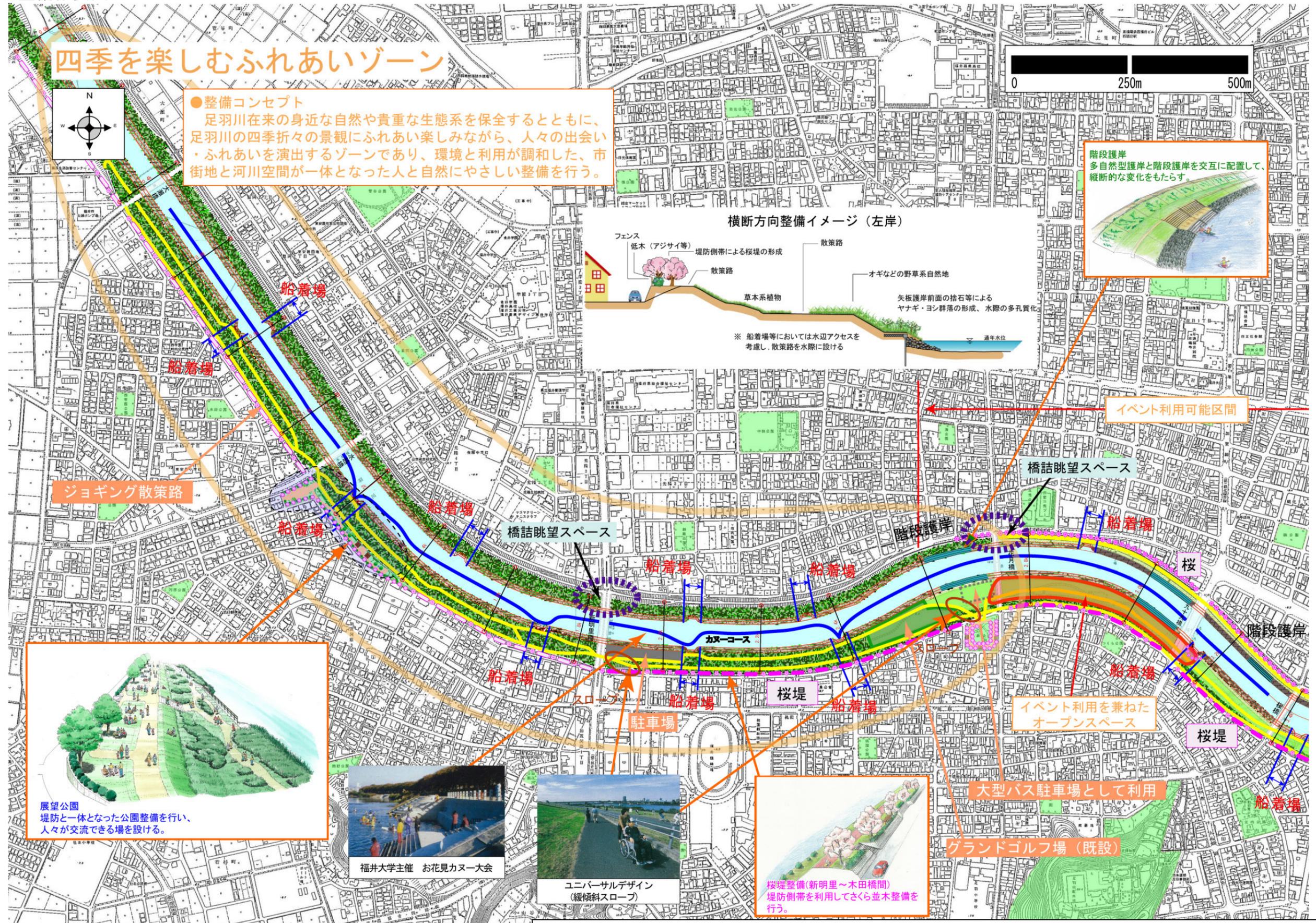
水辺の体験ゾーン



福井の夏の風物詩 納涼花火大会



6. 整備概要図

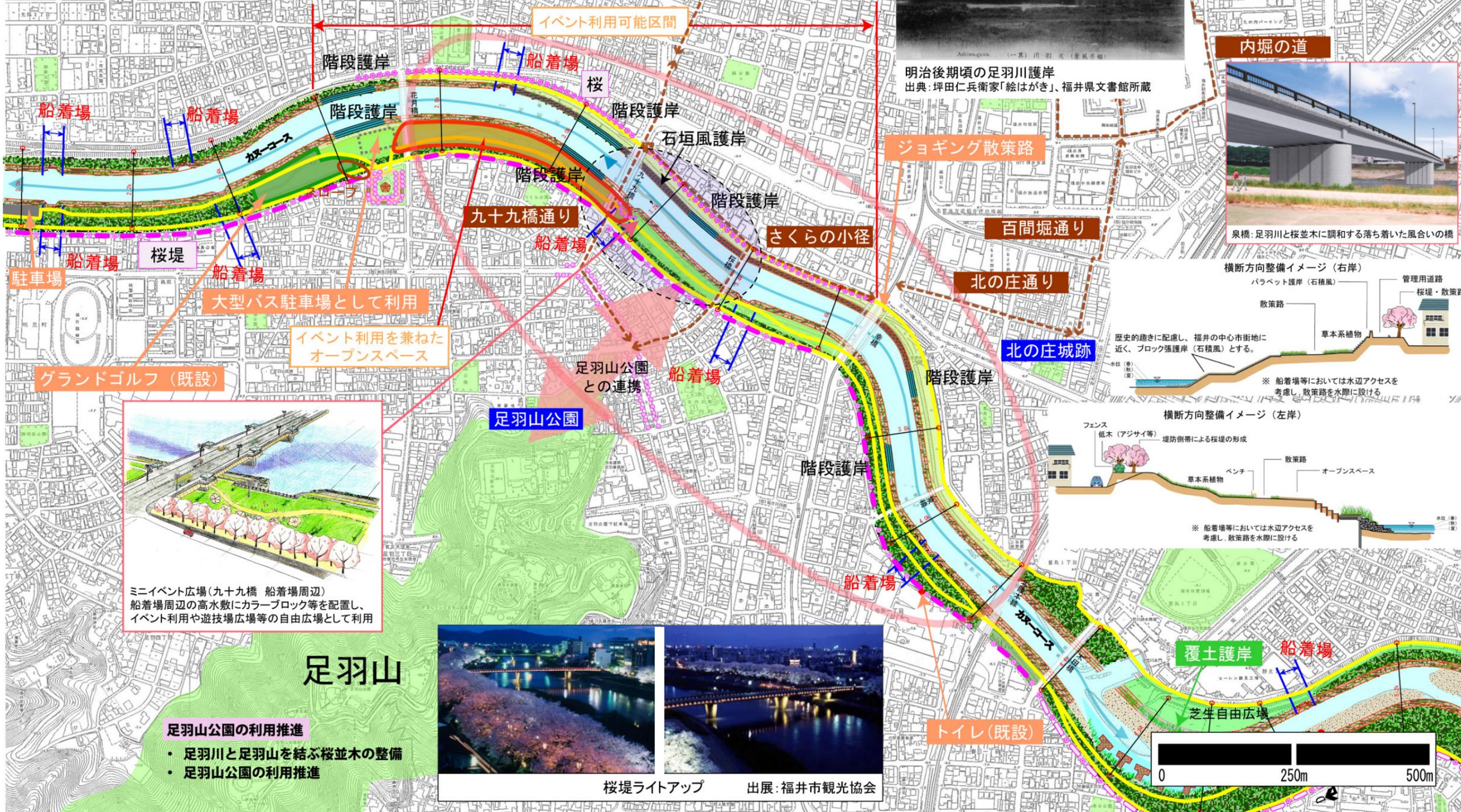
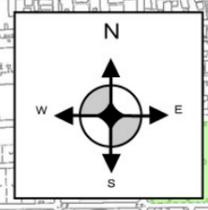


河川環境の整備については、施設等の運営、維持管理を含め、県、市、関連団体、地元市民との連携、協働による取り組みが必要である。

歴史・文化を感じる憩いの水辺ゾーン

← : 歴史のみち

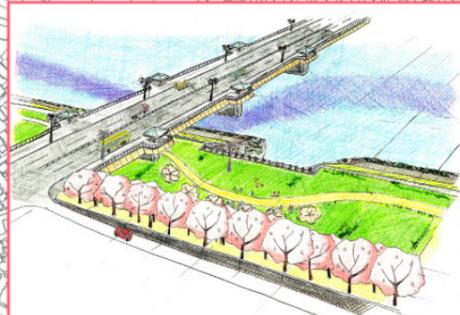
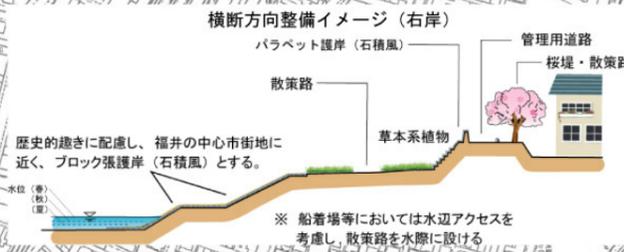
●整備コンセプト
 城下町として始まり、近代都市へと発展してきた福井の歴史・文化と
 接し、憩える魅力ある散策路を花と水の流れの回廊として紡ぐゾーン
 であり、憩いと賑わいを演出した整備を行う。



明治後期頃の足羽川護岸
 出典: 坪田仁兵衛家「絵はがき」、福井県文書館所蔵



泉橋: 足羽川と桜並木に調和する落ち着いた風合いの橋



ミニイベント広場(九十九橋 船着場周辺)
 船着場周辺の高水敷にカラーブロック等を配置し、イベント利用や遊技場広場等の自由広場として利用

足羽山公園の利用推進

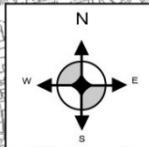
- 足羽川と足羽山を結ぶ桜並木の整備
- 足羽山公園の利用推進



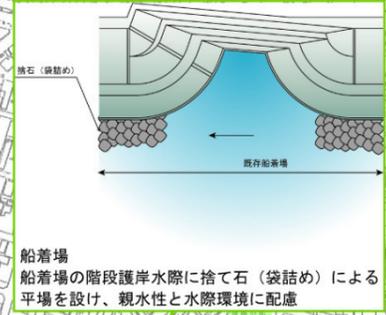
桜堤ライトアップ 出展: 福井市観光協会

河川環境の整備については、施設等の運営、維持管理を含め、県、市、関連団体、地元市民との連携、協働による取り組みが必要である。

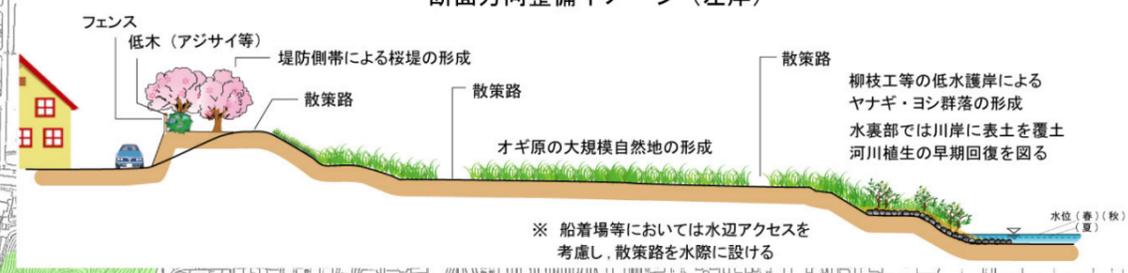
水辺の体験ゾーン



●整備コンセプト
 自然とのふれあい、水辺体験を目的としたレクリエーション活動の場として、自由に遊んだり、憩い・癒しの場として利用されるゾーンであり、足羽川に潜在する河道特性・ダイナミズムを活かした環境と利用の調和と、水辺体験、親水性に配慮した整備を行う。



断面方向整備イメージ (左岸)

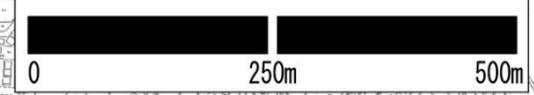


花火打ち上げ

駐車場

桜

船着場



河川環境の整備については、施設等の運営、維持管理を含め、県、市、関連団体、地元市民との連携、協働による取り組みが必要である。

7. 役割分担・維持管理

足羽川河川環境整備は、福井の誇りである桜堤や既存の河川環境を復元・再生し、足羽川の水辺空間を再認識するとともに、福井の歴史・文化などの地域性を踏まえて、更なる地域活性化を図るための町づくりと一帯となった整備として位置づけられる。河川環境整備の具体化にあたっては、河川管理者（県）、福井市、各種団体、地域住民がそれぞれの役割を明確にし、連携・協働による維持管理体制を構築していく必要がある。

<役割分担の考え方>

足羽川河川環境整備は、施設整備というハード対応と地域の連携活動というソフト対応の両輪が動いて初めて、整備の効果が発揮される。すなわち、施設の活用方策とそれを守り育てる地域の維持管理体制の充実が求められる。

<維持管理の考え方>

足羽川の水辺空間は、沿川住民にとっては日常的に目に触れ、肌を感じる生活空間の一部である。また地域以外の人であっても、その存在が市の中心部にあることから通勤、買物、休憩場所として多数の人によってその存在が確認される。

そのため整備後の水辺空間の保全・活用を検討するにあたっては、広く市民の活用と水辺にふさわしい美しい景観の保全・創出を図っていく推進体制（地域協議会、連絡会等）が今後は必要である。

とくに、桜堤の保全については、地域住民、市民団体、福井市、福井県等による協議を継続し、桜の植樹等については「桜のオーナー制度」「桜基金の設立」など、維持管理については市民と行政との連携、協働による取り組みが必要である。